



シリーズ
タンチョウ
Vol. 348

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

櫻井真弓

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ 検索



「タンチョウ再発見から100年」

江戸時代までは北海道各地で繁殖し冬は本州まで渡りをしてきたタンチョウは、明治時代に入り乱獲と主な繁殖地だった道央圏の湿原の開発の影響で人前から姿を消しました。一時は絶滅したと思われていたタンチョウですが、今からちょうど100年前の1924年に鶴居村（当時は阿寒郡下辛村）チルワツナイで十数羽が確認されました。今年は「タンチョウ再発見から100年」という節目の年です。



幌呂小学校で給餌の様子（2018年12月17日）

再発見から28年後の1952年2月、猛吹雪で餌を求めて人里に姿を現したタンチョウにデントコーンを与えたのが鶴居村での給餌の始まりです。幌呂小学校で校長先生と児童の皆さんが地域の方々の協力で給餌に成功した話は知っている方も多いと思いますが、同じころ阿寒町でもデントコーンの給餌がはじまっていました。同年12月には、北海道の生息数調査（現在のタンチョウ越冬分布調査・タンチョウの数かぞえ調査）が始まり、その記録は33羽でした。デントコーンの給餌が成功する以前もタンチョウの生息数を増やそうと、ドジョウの放流やセリの移植などを試みていたとのことですが、目に見えて生息数が増えることはなかったようです。

給餌成功を境にタンチョウの生息数は増えはじめます。数の増加とともに繁殖地の湿原を求めて、春になると鶴居村を離れて根室や十勝地方に移動をするようになりました。今ではオホーツク沿岸や道北のサロベツ原野でも縄張りを構えて子育てをしています。多くのタンチョウは、秋になると越冬のために給餌場のある鶴居村や阿寒町に戻ってきますが、現在、十勝地方では越冬するタンチョウも数多くいます。再発見から82年後の2006年には、北海道の一斉調査で初めて1000羽を越えました。2012年には道央圏（むかわ町）でも子育てに成功し、今では数つがいが道央圏で繁殖し越冬もしています。

1964年に北海道の鳥に指定されたタンチョウですが、当時は道東の一部の地方だけに生息する希少な鳥でした。今では北海道各地で2000羽近いタンチョウが生息していると言われてしていますが、100年さかのぼると、みんな鶴居村民（村鶴？）だったはず。鶴居村と地域の人たちがタンチョウを気にかけて守ってきたからこそ「タンチョウ再発見から100年」です。鶴居村発祥とも言えるタンチョウが、北海道全域で見られるようになって名実ともに北海道の鳥になる日も、そう遠くはないのかもしれませんが。

